

第5回意見交換会の開催報告

- 1.日時：令和4年1月14日 10時00分～11時20分
- 2.場所：名古屋市役所 西庁舎12A会議室
- 3.団体名：ラブリーアース Japan、相生山の四季を歩く会
- 4.市出席者：緑政土木局企画経理課 可児主査（企画）
道路維持課 姫野主査（安全対策）
道路建設課 山中課長
蒲野主査（事業調整）
緑地事業課 小林緑地計画係長

5.参加者：9名

6.当日の次第

- (1) 開始のあいさつ
- (2) 現状報告
- (3) 弥富相生山線について
- (4) 入り込み交通対策について
- (5) 相生山緑地 緑地計画検討会の報告
- (6) 終了のあいさつ

7.主な質疑、意見等（○参加者、●名古屋市）

（現状報告）

- 市議会の意見は、全員道路を通せということなのか。採択された請願は正しい内容なのか。
- 全会一致ではない。行政と市議会は独立した組織で、市議会で採択された請願について、行政が正しいかどうか判断する立場にない。
- 市議会に誤りがあるなら、行政が正すべき立場にあるのでは。
- 行政と一緒に市をよくしていきたいと考えている。こちらからの意見に対して行政からの答えがなく、キャッチボールができていない。
- よいものをつくっていくために、今後、意見交換会ではない新たなやり方を検討していく可能性もあるので、その際頂いた意見を参考としていきたい。
- 今後の意見交換の際は、市長や有識者が同席できないか検討をしてほしい。

（弥富相生山線について）

- 今、折衷案はあるのか。何と何の折衷なのか。
- 来年度、折衷案を検討する。様々な価値観がある中で、皆さんが歩み寄れるようなものが折衷案になると考えている。
- 市としてのまちづくりの方針はあるのか。
- 相生山において、明確な個別の方針はない。市全体の方針としては、都市計画決定された道路は造るべきものとなっており、またみどりについては保全していくとしている。
- 学術検証懇談会でも市の方針がないことについて意見が出されていたが、価値観の折衷ではなく、事実をもとに市として方針をもって調整を行ってほしい。そうでなければ賛成反対色々あって、折衷できないのではないか。
- 入り込み交通が危険ならすぐに手を打つべきであり、また災害時の避難路が必要なら完成までに時間のかかる道路建設によらない解決方法を、検討すべきではないのか。
- 価値観の一つとして意見をもらったと思う。折衷案を検討していく上で参考としたいが、様々な価値観の人がいる中でより多くの方に一定の理解をしてくれるようなものを作っていきたい。よって、異なる価値観に対しても全否定ではなくある程度理解を示してほしい。
- 昨年度の調査は、道路を造るために行ったように見える。相生山の自然の中で暮らすために引越しをしたが、以前より鳥が減り、ヒメボタルも前は木が茂っていたので20時前に飛翔が見られたが、今は木が伐採され見られなくなってしまった。
- 郊外から都心に向かってなど、車が混むのはどこでもあることで、道路を造っても人の動きをコントロールできるものではない。
- 子供たちの学習の場として、森の成長を見守る緑地を残したい。
- 調査結果ではヒメボタルへの影響がなかったとなっているが、車が走れば状況が変わるのではないか。
- 工事未着手部分に新たな構造物を建てて道路を造れば、環境破壊につながる。
- 53年前に家の前に道路が通ると聞いたが、その後動きがなく、なぜ今になって不要な道路を造るのかと言っている地元住民もいる。
- 決めたら造らなければいけないのか。人の手が入らない公園も必要ではないか。
- 道路を造れば、人や動物の新たな事故が起きるのではないか。